

◆◆◆ 広告一覧 (五十音順) ◆◆◆

アネスアルファ……………表 2, i, ii
 アネスネット……………14
 医学書院……………65, 81
 医書ジェーピー……………40
 エム・ディー・マネジメント……………表 3
 ディヴィンターナショナル……………30
 南山堂……………57
 フジメディカル……………39
 村田製作所……………表 4
 メディカルブレン……………102

次号予告 2025 年 2 月号 Vol.32 No.2

[徹底分析シリーズ] 血漿分画製剤

▼ 特定生物由来製品とは？

国立循環器病研究センター 麻酔科 本庄 俊介
 国立循環器病研究センター 輸血管理部/麻酔科 吉谷 健司

▼ 血漿分画製剤オーバービュー

奈良県立医科大学 小児科/総合周産期母子医療センター 矢田 弘史

▼ 各論 1 アルブミン製剤

広島大学大学院 救急集中治療医学 石井 潤貴

▼ 各論 2 免疫グロブリン製剤

自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔科 飯塚 悠祐

▼ 各論 3 AT3 製剤・トロンボモジュリン製剤

大阪急性期・総合医療センター 救急診療科 梅村 穰

▼ 各論 4 ハプトグロビン

東京女子医科大学 麻酔科科学分野 武石 健太・長坂 安子

▼ 各論 5 経口抗凝固薬の緊急拮抗

東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座 香取 信之

[症例カンファレンス] 胸郭低形成患者の呼吸管理

あいち小児保健医療総合センター 麻酔科 川津 佑太
 福岡市立こども病院 麻酔科 藤田 愛・泉 薫・水野 圭一郎
 国立成育医療研究センター 手術・集中治療部 糟谷 周吾
 岡山大学病院 麻酔科蘇生科 佐倉 考信

※誌面の都合により、内容は変わることがあります。

◆◆◆ 読者のギモンにこたえます ◆◆◆

【質問】

2024 年 11 月号 症例カンファレンスの 1033 頁に、「ケタミン (0.1 mg/kg/min) で維持した」とありますが、多すぎませんか？ 0.1 mg/kg/hr ではないのですか？

【執筆者からのお返事】

0.1 mg/kg/hr は、いわゆる subhypnotic dose と呼ばれる量で、鎮痛補助を目的とした場合に用いる量ですが、今回はケタミン (と、補助としてデクスメトミジン) で全身麻酔を行ったため、0.1 mg/kg/min を用いました。ケタミンがメインであることがわかるように、「ケタミンとデクスメトミジン」と書いたほうがよかったですね。

◆◆◆ 今月の our favorite ◆◆◆

全国紙の書評を「出会いがあったら読もう」と切り抜いておいたら、ほどなく 2023 年 2 月号の BookReview で取り上げられたので (嗜好が似てますね)、書店での出会いを待たずに注文購入して読了していました。今回の「研究室探訪記」で、そんないきさつのあった「人工冬眠」のお話を直接聞くことができたのは、役得でした。臨床応用を目指す基礎研究者がおられる一方で、臨床麻酔で組織に貢献し、基礎研究は自分が楽しむことを重視する姿勢にも拍手です。何にせよ、ツライのは続きませんから。(E)

ノーベル平和賞の授賞式を見て、核兵器のない、戦争のない平和な未来について改めて考えています。壮大なテーマですが、一人一人が身近なところから平和について考えることがその一歩になると思います。2025 年最初の特集は、麻酔界の未来をテーマとしました。身近な麻酔薬から地球環境を考えたり、臨床と研究について考えたり、日本の医療全体について考えたりする機会になれば幸いです。(N)

今月号のブックレビューでは『都市に侵入する獣たち：クマ、シカ、コウモリとつくる都市生態系』を取り上げています。昨年末には、秋田市のスーパーマーケットでツキノワグマが従業員を襲撃し、数日間わたって立てこもりました。一方で殺処分に対しては抗議が殺到し、自治体を悩ませています。シカ、ヒグマ、イノシシ…人間と野生動物との共生の難しさを感じさせるニュースが立て続けに起こる昨今の日本にとって、タイムリーな一冊です。(H)